

令和6年度 江戸川区立新田小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> よく考える子 思いやりのある子 体をきたえる子 	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> 子供の笑顔があふれる学校 自ら考え、主体的に判断し、行動する児童 「チーム新田」の一員として、互いに同僚性を高め合える教師
前年度までの本校の現状	成果 <ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオの活用により、家庭や地域と連携して児童の意欲を高められた。 SDG's (ShinDen Goals) の取組により、児童の未来に向けた自分たちができることへの意識を高めることができた。 	課題	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着 国語の力（読みとる力）の育成 子供たちが主体的に考える交流の実施 若手教員の育成

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価(A～D)		「年度末」学校関係者評価(A～D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○基礎基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> 週に1回パワーアップタイムを設定して、学年に合わせた基礎・基本学習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルの診断テストでCD層割合を低10%高5%減少させる。 	A	A	A	パワーアップタイムを設定することで、基礎学力に定期的に取り組むことができた。必要に応じて朝の時間も実施する。	B	基礎基本の定着はとても大切なので、児童の力が（特に読解力等）の向上を望む。	A	パワーアップタイムは有効であった。4、5年生の学力定着度調査では、江戸川区全体よりCD層を減らすことができた。	A	学力の底上げができたことは評価できるが、今後も継続的に子供たちの基礎学力の定着を基でもらいたい。	パワーアップタイムの回数や内容を見直していく。
	○授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究や年に2回の授業観察を通して、授業スタンダード（問題解決型学習）スタイルを確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童へのアンケートで80%以上の児童が授業が楽しいと回答 	B	B	B	研究授業では、児童の主体性を高めるための指導法を学ぶことができた。学んだことを日常に活かしていく。	A	研究授業の取組が児童の意欲につながっていくことを望んでいる。	B	研究授業では、令和の新田型授業スタイルの礎を築けた。児童アンケートで90%が肯定的な意見であった。	A	授業研究が一番大切なことなので、今後も力を入れていってほしい。	来年度も国語の説明文に絞って研究を行い、新田型スタイルの構築を図る。
	○読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> 「読書科ノート」を活用した探究的な学習を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みに5、6年生児童が、調べる学習に取り組む。 	B	B	A	夏休みの5、6年生への取組は実施することができた。今後探究的な学習の推進につなげていく。	A	新聞などを読む習慣がついてくることで、力がついてくるのではないかと感じる。	B	児童アンケートで調べる学習が好きは87%が肯定的な意見であった。読書科については、読書科ノート等の研修を実施した。	B	本を好きな児童が少なくなっている。大切にしていってほしい。	調べる学習の継続と読書科の授業の推進を行っていく。
体力の向上	○体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回のなわ跳び週間を実施する。週1回の新田プレイタイムを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童へのアンケートで80%以上の児童が休み時間に外で遊ぶのが好きと回答 	A	A	A	暑さのため実施できないことがあった。運動環境やなわ跳びカードなどを工夫してさらに意欲的に取り組めるようにする	B	暑い中、外で活動するリスクが高いので、時間などを工夫して取り組ませてほしい。冷房ばかりの環境は心配である。	B	外遊びが好きな児童は85%が肯定的な意見であった。しかし、寒さとともにうち遊びの児童も多く見られた。	B	外遊びが好きな児童だけでなく、好きでない児童への働きかけを大事にしていってほしい。	体力テストのもち方、縄跳びへの取り組み方などに工夫を行っていく。
	○個に応じた体力向上のための取組の実施	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた達成目標の設定とポートフォリオの活用による家庭等と連携 	<ul style="list-style-type: none"> 児童へのアンケートで80%以上の児童が体育で達成感を味わったと回答 	B	B	B	1学期にポートフォリオの研修を実施した。2学期に実際の取組を始め、3学期の発表につなげる。	A	家庭との連携のためにも、実施につなげてほしい。目標を設定して行うのはよい活動である。	A	体育の時間にできるようになったと感じた児童は91%であった。ポートフォリオは体育に縛らず発表会を実施した。	A	子供たちにできたという思いをたくさん味わわせてほしい。	体育の授業において、達成感を味わわずことのできる授業を行っていく。
	○歯磨き指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学校での歯磨きとフッ化物洗口を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期から全校児童による歯磨き指導とフッ化物洗口を実施する。 	B	A	A	2学期から4～6年で開始することができた。実施しながら課題となることを見つけ、3学期に活かしていく。	A	歯が弱っている児童が多いので、よい取組であると思う。	A	3学期から低学年とうみかぜ学級でも開始した。水道が少ないが工夫して行うことで定着を図っていく。	A	よい取組であると思う。継続してほしい。	来年度も継続していくことで定着を図る。
実現に向けた教育の推進	○通常学級とうみかぜ学級、副籍交流及び共同学習の実施充実	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画に基づいた交流及び共同学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 通常とうみかぜ学級は各行事で実施 副籍交流は学期に1回実施 	A	A	A	委員会や各行事、復籍交流などで交流を行うことができた。日常における交流も今後行っていく。	A	お父さんの会のキャンプでは、互いに関わり、交流の様子が見られた。	A	全学年ではないが、授業での交流も行うことができた。児童同士が自主的に関わる難しさも感じたので、課題とする。	A	交流を通して優しい児童を育ててほしい。	特色部を立ち上げ、さらに良い交流のために検討をしていく。
	○エンカレッジルームの活用促進	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援委員会において、支援が必要な児童の共通理解を図り、計画的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じてエンカレッジルームを組織的に活用する。 	A	A	A	支援を要する児童に対して、教職員の共通理解のもとで、組織的に対応することができている。	A	今後も組織でしっかりと対応していってほしい。	A	個別の支援を行うことで、落ち着きが見られるようになった児童がいた。支援委員会での共通理解が大きかった。	A	大変だが、支援を必要としている児童への対応は続けてもらいたい。	今年度同様、学校体制を整えて支援を行っていく。
	○障害理解の促進	<ul style="list-style-type: none"> 障害理解に関する教員への研修会の実施と児童への障害理解教育授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 研修は年2回、障害理解教育授業は低学年と高学年で1回実施 	B	A	B	研修会を巡回指導や固定学級の担任を中心に2回実施することができた。4年生の復籍交流で理解教育を実施した。	B	保護者も含めた理解教育の充実を図ってほしい。	B	5年生と1年生において発達障害理解教育を実施した。発達障害について考えるきっかけになった。	A	理解教育の授業を定着させていってほしい。	特別支援教室の担当とも連携して、学年による定着化を図る。
不登校・	○児童理解の充実	<ul style="list-style-type: none"> hyper-QU、定期的な情報交換、児童理解のための研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 児童へのアンケートで90%以上の児童が学校が楽しいと回答 	A	A	A	hyper-QUの研修を実施し、今後に生かせるようした。教員一人ひとりで抱え込まず、報連相を大事にして、対応していく。	A	いじめは早期発見がとても重要になる。今後もそれに向けて様々な情報収集を行ってほしい。	B	児童理解や情報交換に努めることでいじめに対応することができた。学校が楽しいと答えた児童は87%であった。	B	学校が楽しくないという児童への支援を行ってほしい。	L-GATEを通して児童理解を深められるようにする。

いじめ対応の充実	○道徳授業の充実	・全学年、年3回のいじめに関する授業を実施	・児童へのアンケートで100%の児童がいじめは絶対に行けないと回答	B	B	B	1学期は全学級でいじめの授業を行った。なかなか行動に結びつけるのは難しく、様々な場面で伝えていく必要がある。	B	いじめがいけないことを伝えるために、いじめについて話をする機会をたくさんもってもらいたい。	B	必要に応じて授業を行ったり、学校全体に話をしたりした。いじめは行けないと答えた児童は92%であった。	B	いじめの早い対応はとても大切だと思う。いじめが絶対ダメという考えで内耳道の理由が知りたい。	今年度の取組をさらにポトムアップすることで、いじめへの対応を強化していく。
	○教育相談の強化	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化	・不登校児童とSC、SSWの連携率100%	A	A	A	SCとは定期的に面談し、支援方法を模索している。SSWとも時間を設定し、指導方針を共通理解している。	A	不登校児童に寄り添うことはとても大切である。	A	SCやSSWと連携を図ることで保護者と共通理解のもと指導にあたることができた。	A	様々な機関と連携していくことはとても大切である。	今後もよよい連携が図れるよう、組織で対応していく。
学校(園)の地域社会に開かれた実現	○学校ホームページの活用	・学校ホームページの更新	・毎日更新を行う。	B	B	B	毎日更新は難しかった。2学期から、週に2~3回の更新はできているので、今後も続けていく。	B	新しい情報を積極的に更新して行ってほしい。	A	週に3日以上更新をして、学校の様子を伝えることができた。	A	子供のたちの日常の姿を知ることができるのは嬉しい。	今後も日常の様子を伝えるとともに、見やすいホームページ作成を目指していく。
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者のアンケート結果を伝え、学校改善を図る。	・2学期にアンケート実施、3学期に結果と今後の方針を伝える。	B	A	A	2回の関係者会議では、貴重な意見をもらうことができた。今後、保護者アンケートも実施し、経営に生かしていく。	A	今後もできる限り子供たちのために、様々な視点で意見を伝えていく。	A	児童、保護者アンケートを実施した。今後、結果を伝えるとともに、今後の学校経営に生かしていく。	A	児童や保護者の声を聞き、より良い学校を目指していくことは大切である。	来年度もアンケートを通して、よりよい学校づくりを目指していく。
	○学校公開の充実	・運動会、展覧会も含め、年6回の学校公開の実施	・保護者へのアンケートで80%の保護者が学校は適切に公開を実施と回答	A	A	A	運動会、授業公開等は、予定通り実施できている。今後も保護者に子供たちの日常を伝えられるようにする。	B	地域、保護者(P T A)、学校が顔合わせをできる機会が必要である。	A	展覧会では、保護者と一緒に取り組む活動も取り入れ好評だった。保護者アンケートでも肯定的な意見が98%であった。	A	児童と触れ合える公開は良かった。	来年度も児童の姿を見せるとともに、触れ合える公開を行っていく。
教育の展開 特色ある	○個性を認め合える児童の育成	・児童が主体的に考えた交流やたてわり班活動の実施	・児童へのアンケートで90%以上の児童が他学級児童の良さを見付けたと回答	B	B	B	予定していた月1回のたてわり活動等は実施できている。新しい取組を今後実施していく。	B	できるところは積極的に縦割りの活動を取り入れて行ってほしい。	B	たてわり班活動は実施したが、児童の自主性を引き出せていない様子も見られた。よいところを見付けている児童は85%であった。	B	児童が考えて行う機会を増やして行ってほしい。	縦割り班で児童主体の活動を増やしていく。
	○教員研修の実施	・若手を中心とした研修を必要に応じた内容で実施する。	・年8回以上実施 ・学期に1回以上自主的に授業を参観して学び合う。	A	A	A	担当者中心に研修を実施することができている。互いに授業を見合う機会を今後は増やしていく。	A	研修を積極的に行い、子供たちのよりよい学びにつなげて行ってほしい。	B	計画した研修は実施できたが、忙しくなると自主的な授業参観は難しいところがあった。	A	忙しいと思うが、研修は大切だと思う。	教員主体の研修を実施できるように、内容を工夫していく。
	○働き方改革の推進	・毎週水曜日に授業準備を行える時間を設ける。	・年間25回以上水曜日に授業準備の時間を設ける。	A	A	A	水曜日の午後を有意義に使うことができている。さらに効率化を図ることで働き方改革を推進していく。	A	働き方改革を様々な形で推進して行ってほしい。	A	水曜日の午後がかなり余裕を生むことができた。授業に向かう時間をさらに増やしていきたい。	A	必要なことは行ってほしいが、改革も進めてほしい。	会議のもち方の工夫と意識改革を行っていく。